

見てみよう!

地元企業の隠れたスゴ技を紹介

狭山市には、独自の技術を持っていたり、地域に根付いた活動をしている企業がたくさんあります。狭山台図書館では、展示コーナーや連携講座などを通して、皆さんに地元企業の情報を発信していきます。

「難聴＝高齢者」の壁

企業や店舗の製品やサービスなどを紹介するのは図書館の正面目入口付近です。ここはご来館いただいた方の多くの目につくところであり、知っていたいたくためにも非常にいい場所でもあります。

令和4年12月と令和5年1月で実施したこの展示、今回は補聴器そのものとポスター、チラシです。きっかけは近所ならではの、ご来店のお客様が「これから図書館に行くところ」と口々におっしゃっていたことが影響しているそうです。図書館での展示をきっかけに広く認知してもらえればと思っていたところに図書館からの依頼が届いた。渡りに船とはまさにこのこと、すぐさま問い合わせをしたとのこと。

お知らせしたいことはもちろん耳の健康についてですが、その普及に向けて大きな壁が立ちました。表題にある通り、「難聴＝高齢者」という強い思い込みです。

(下段に続く)

補聴器のラビット

目的とスローガン

介護福祉士時代に難聴で補聴器が使えない人を見て、上手く使うための手助けをしたいと、補聴器の世界に入る。平成29年2月1日現在地へ出店。スローガンは「聞こえると人生は明るく変わる、そのお手伝いをしたい」

住所：埼玉県狭山市狭山台1-18-11

HP：<https://www.otomimi.jp/>



展示内容

耳の健康についての情報を提供しております。健康に対するさまざまな影響が載っており、耳が身体全体に及ぼすことがわかります。

聞こえにくさ10の質問

自分の聴力がどのようになっているのか、自力で判断するのは至難の業です。あくまで参考程度ですが、気付くきっかけになってもらえればと思い配布しました。

質問	回答
1 静かな所で、家族や友人と1対1で向かい合って会話ができる	
2 家の外のあまりうるさくない所で会話ができる	
3 買い物やレストランで、店の人と話すときに聞き取れる	
4 後ろから近づいてくる車の音が、聞こえる	
5 電子レンジの「チーン」という音など、小さな電子音が聞こえる	
6 後ろから呼びかけられる時、聞こえる	
7 人ごみの中の会話ができる	
8 4〜5人の集まりで、話が聞ける	
9 小声で話された時に、話が聞ける	
10 テレビドラマを視聴の人にちょうど良い音で聞いているときに聞き取れる	

企業展示コーナー

その意義

狭山市内には独自の技術を活かして活躍する企業、生活に密着した分野で人々に寄り添う企業、地域のために貢献したいという気持ちあふれる企業、失敗を恐れず常に挑戦し続ける企業がいくつもあります。

そうした取り組みを皆様にもぜひ知っていただきたい。私たちが暮らす地域の情報を集め、提供する事も図書館の重要な役割の一つだからです。知ることが皆様に愛着や誇りを感じていただく確かな礎となります。

本を読んだり、勉強したりする図書館はさまざまな方が集まる場です。それを活かした展示の場、触れ合いの場として企業の方々に使っていただければと思い、始めることとなったのがこの企業展示という企画なのです。

今回の会社は、「補聴器のラビット」です。狭山台図書館のご近所にある補聴器のお店です。難聴について、耳について知らないことだらけだったなと痛感することとなりました。

(上段から)

「難聴」というのは高齢者になってからであって、年を取って衰えは感じてまだまだ聞こえるうちは補聴器なんて不要なんでしょ?」と、どうしても考えがちです。この考えにとらわれてしまい、対応が遅れてしまうことになり、耳の聞こえが悪いなと感じても、高齢者とみなされるのが恐くてなかなか相談しづらくなります。遅れば遅れるほど聴力が取り戻しにくくなり、対人関係にも支障が出ることも影響してか、精神疾患につながることもあるようです。

加えて、世界規模でみると難聴者が増えつつも多いのは高齢者ですが次いで多いのは10代の若者とされているそうです。耳の聞こえが悪いのは年配の方に限った話ではありません。どの年齢層であつてもなりうる話としてとらえてほしい。

問題意識を高めるための講座を1月に開催しました。次のページからはその模様をご紹介します。